

滋賀県立大学人間看護学部 地域交流看護実践研究センター

活動報告書

2025 年度

ごあいさつ

2025 年は、社会活動が安定的に展開される中で、対面での交流や学びの機会が広がり、地域との関係性が一層深まった年となりました。本センターにおいても、公開講義や専門講座、研究支援活動を継続的に実施し、地域に向けた知の発信と実践支援を着実に積み重ねることができました。

一方で、教育・医療分野における DX（デジタルトランスフォーメーション）の進展は著しく、看護職の学びや実践を支える環境も大きく変化しています。本センターにおいても、ICT の活用や教育方法の高度化に向けた取り組みを進めており、大学としての役割を果たすべく試行錯誤を重ねている段階にあります。また、本年度は嘉門タツオ氏の講演会を契機として、地域住民の皆様との直接的なつながりの重要性を改めて認識する機会となりました。専門職者のみならず、地域住民とともに学び、考える場の価値を再確認し、より地域に開かれたセンターのあり方を模索する契機となりました。

しかしながら、滋賀県における医療人材の不足は一層深刻化しており、看護職の確保・育成・定着に向けた取り組みは喫緊の課題です。このような状況の中で、本センターには、大学と臨床現場、さらには地域社会をつなぐ役割がこれまで以上に求められています。今後は、人材不足という課題を起点として、関係機関との連携を強化し、看護人材の育成と循環を支えるエコシステムの構築、すなわち実践・教育・研究をつなぐプラットフォームの形成に取り組んでいく必要があります。

以上の現状を踏まえ、本センターは次年度に向けては、地域との連携をより具体化し、DX の活用も含めた新たな展開を図ることを重要な課題として位置づけております。今後とも、地域の皆様、医療機関、教育・研究機関の皆様と力を合わせ、地域に根ざした看護の発展に寄与してまいりたいと考えております。本センターの取り組みに対し、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

滋賀県立大学人間看護学部
地域交流看護実践研究センター
センター長
本田 可奈子

目次

ごあいさつ

I. 2025 年度(令和 7 年度)の活動	…	P1
II. 各部門の活動報告		
研究部門	…	P2
研修部門	…	P4
情報部門	…	P8
III. 看護キャリア形成支援室の活動報告	…	P9

II. 2025 年度(令和 7 年度)の活動

	研究部門	研修部門	情報部門	
4 月	・共同研究審査会(継続) ・文献検索		・ホームページ更新	・第1回専門委員会
5 月	・看護協会共同事業受入 ・研究相談、文献検索		・事業案内発送 ・ホームページ更新	・第2回専門委員会
6 月	・文献検索 ・看護研究学習会開催 ・看護協会査読受入	・専門講座開催 ・公開講義開催	・ホームページ更新	・運営協議会開催 ・第3回専門委員会
7 月	・研究相談、文献検索 ・看護研究学習会開催		・ホームページ更新	・第4回専門委員会
8 月	・研究相談、文献検索 ・看護協会査読受入	・公開講義開催		・キャリア形成支援交流集会開催
9 月				・第5回専門委員会
10 月	・研究相談	・講演会開催		・第6回専門委員会
11 月	・研究相談		・ホームページ更新	・第7回専門委員会
12 月	・研究相談		・ホームページ更新	・第8回専門委員会
1 月	・研究相談			
2 月	・看護協会共同事業完了 ・共同研究様式改正		・2026 年度版パンフレット作成 ・ホームページ更新	・第9回専門委員会
3 月	・研究相談	・専門講座開催	・2025 年度活動報告書作成 ・ホームページ更新	・第10回専門委員会

Ⅲ. 各部門の活動報告

A. 研究部門

1. 委員：久保美紀教授、小林孝子准教授

2. 活動の概要

1) 共同研究（4件：継続4件、新規0件）

昨年度から継続の共同研究4件の研究費助成について、共同研究審査会での審査を経て承認した。新規の共同研究は、助成費の確保が難しいことから今年度は募集を行わなかった。

共同研究申請書様式について、昨年度より継続して検討し、申請内容がより明確に具体的に記載できるようにした。今年度は、共同研究者の追加や所属施設の変更等への対応が必要となり、各修正事項にかかる様式を作成した。また年度ごとの活動報告書、完了報告書を新たに作成した。その他、共同研究申し合わせ事項の見直しを行った。

2) 研究相談（15回：対面12・メール3）、文献検索（11人）

研究相談の総数は15回であった。そのうち、対面での研究相談が12件、メール3件であった。文献検索の利用人数は11人であった。

3) 看護研究学習会（7/16：23名 7/23：17名）

滋賀県看護協会より委託を受け、看護研究学習会「2025年度看護研究スキルアップ研修Ⅰ・Ⅱ」を2日間の日程で開催した。本研修は、受講者が自己教育能力、研究能力の向上を目指すことを目的としている。1日目は看護研究の意義、実臨床において生じた疑問を看護研究へと発展させるための方法について概説した後、文献検索方法の習得、論文クリティーク、研究テーマの絞り方について講義と演習形式で実施した。2日目は量的・質的研究論文のクリティークについて講義とグループワーク形式で実施した。参加者のアンケートでは、両日ともに受講者の9割以上が看護研究のスキルアップに繋がったとの回答が得られた。

4. 次年度にむけて

共同研究については、申請内容が具体的かつ明確に記載できるよう申請書式を一新した。共同研究申し合わせ事項の修正をおこなった。2026年度の申請より改訂版の書式が活用されることとなる。本研究の経費が臨床看護の質向上に寄与することを期待したい。

研究相談については、相談者からの研究内容に応じて対応教員を配置した。引き続き、相談者の希望に沿えるよう環境を整えていきたい。一方、研究相談者は看護研究の初心者も多く、研究を進行する上で基礎知識が不足していることが散見された。今後は、本部署で開催している看護研究学習会への参加を促すなど、地域交流看護実践研究センターが県内で働く看護師の知識向上に役立つよう取り組んでいきたい。

看護研究学習会については、次年度も今年度と同様の内容で2026年7月15日、22日の2日間の実施が予定されている。円滑な研修会の運営に向けて準備を進めていきたい。

B. 研修部門

1. 委員：千葉陽子教授 藤井誠教授

2. 活動の概要

1) 講演会「嘉門タツオ：滋賀のナース応援ステージ in 県大!!」

(2025/10/18 356名)

シンガーソングライターの嘉門タツオ氏をお迎えし、滋賀県内で保健医療福祉に尽力されている看護職の方々を応援し、感謝を伝えるとともに、地域住民の皆様に県立大学人間看護学部を広く知ってもらい、楽しい時間を過ごしてもらうために、本会を企画した。

一般の参加者が多かったが看護職の参加も一定数あり、ライブでは看護に関するトークも交えていただき、地域住民と看護職と一緒に楽しめる笑いあふれる会となった。参加者による事後アンケート（回答者 83 名）からは、満足度「とてもよかった」が 80%、「嘉門さんの歌を聞いて元気になったか」への 10 段階評価の平均点 9.72、「滋賀県の看護師さんを応援する」という目的は達成できたと思うかへの回答：「そう思う」「非常にそう思う」で 96%、という結果が得られた。

本講演会を機に初めて県立大学に来られた地域住民もおられ、大学や人間看護学部を知ってもらう良い機会となっていた。これまでの講演会は専門職を対象とした内容が中心であったが、今後は一般の方々も広く対象とした企画を取り入れ、地域に根差した開かれた学部として教育や研究の発展に繋げていくという取り組みも有意義であることを認識できた会であった。

2) 専門講座

2件 2講座

① 有床開業から5年：変わりゆくお産の状況と私のライフステージ

(2025/6/30：20名)

塩見先生には、助産師を目指したきっかけ、看護師・助産師の資格を取得し様々な臨床経験や地域活動を経て開業に至ったこと、そして開業後5年の歩みについてお話しいただいた。その中で、産科以外での臨床経験も重要なこと、ワーク・ライフ・バランスの調整が難しいことや、開業助産師として対象と深く継続的に関わることの醍醐味などを具体的にお話下さり、長く助産師を続けるための様々なヒントを頂いた。社会で少子化が進行していても、依然、個々の女性たちは多様な困難を抱えおり、助産師は社会のあらゆる場面で求められているため、医療施設内にとどまらず地域にも目を向けて活動していくことの大切さを塩見先生の経験とともに参加者間で共有できた。

県内の様々な立場の助産師に加え、行政機関の保健師の受講もあり、学生8名が地域での母子・家族支援の生の声を聞ける貴重な機会ともなった。

(専門講座受講者10名・学内教員2名・院生8名)

② 保健室登校の実際

(2026/3/14：第1部 28名 第2部 12名)

小中学校のスクールカウンセラーとしてご活躍の佐伯先生と県内の高校で養護教諭としてご活躍されている吉原先生から、現在の児童・生徒の保健室登校についてご講演いただいた。佐伯先生からは、国の施策の流れを踏まえた保健室登校の捉え方、保健室登校を行う児童・生徒の背景、スクールカウンセラーの立場からみた保健室登校についてお話していただいた。吉原先生からは、実際に養護教諭として関わられる中で見えてくる生徒の姿や思い、養護教諭としての関わりの実際、関係者との連携などについて具体的な事例などを含めてお話していただき、保健室登校の生徒に対する関わりについて学ぶことができた。

事後のアンケートで印象に残ったこととして、相談に対する姿勢、生徒の思いを尊重した関わり的重要性などが挙げられており、養護教諭としての関わりについて多くの学びが得られていた。講演会后、希望者（8名）とご講演いただいた先生方との交流会も持たせていただき、学校現場における支援や就職活動についての情報交換など活発に意見交換がなされ、養護教諭を目指す学生にとって貴重な機会となった。

(第1部：専門講座受講者 11名・学部履修生 12名・学内教員 4名・その他 1名)

第2部：専門講座受講者 4名・学部履修生 4名・学内教員 4名)

3) 卒後教育-公開講義

3件 4講義

① 「人間看護学概論」病院建築家ナイチンゲールから考える療養の場としての病院の変遷

(2025/06/06：72名)

本講義は、ナイチンゲールの業績を「建築」という新①たな視点から再解釈し、療養環境としての病院のあり方の変遷について理解を深めることを目的として実施した。あわせて、学部学生のみならず、臨床実践者にとっても示唆を得られる学びの機会とするため、公開講義として開催した。外部参加者2名から感想を聴取した結果、いずれも「ナイチンゲールの業績を建築的観点から捉えることで、新たな理解が得られた」との意見があり、本講義に対する満足度は高かった。本講義により、ナイチンゲールの実践を単なる看護理論にとどめず、療養環境の創出という広い視点から捉える重要性が示された。学生および実践者双方にとって、病院という場の意味を再考する契機となったと考えられる。

今回は、公開講義の告知が遅かったため、今後は、より多様な実践者の参加を促進するとともに、早期から告知を行い、講義内容の発展的な議論の機会を設けることが課題である。

(専門講座受講者なし・学内教員 2名・学部履修生 70名)

- ② 「ホリスティックケア論」リンパ浮腫のケア（基礎編・応用編）
（2025/06/19：18名 2025/06/26：17名）

人間看護学部3・4回生を対象とした「ホリスティックケア論（選択科目）」の「リンパ浮腫のケア・基礎編（6/19）」「応用編（6/26）」を公開講義とした。

「基礎編」では、リンパ節郭清を伴うがんの手術を受けた後などにみられる「続発性リンパ浮腫」の概念や患者の体験、基本的なケアについて紹介した。「応用編」では、下肢静脈の環流障害による浮腫、循環器系の機能低下による浮腫、がん終末期にみられる浮腫、高齢者にみられる浮腫（廃用性浮腫）、女性がよく経験するむくみ、などの原因やケアについて解説した。また、災害時の避難生活における血栓予防としての弾性ストッキングの着用についても紹介した。そして、リンパの流れを促す体操や、弾性ストッキング・弾性包帯の装着体験を行った。

浮腫（むくみ）はよくみられる症状であるが、生理的な変化によるものから重大な疾患に関連するものまで、その原因は多様であり、原因に応じた適切なケアが求められる。また、「よくあること」として、相談しづらく我慢されがちな症状でもある。本講義が、むくみに悩む人のQOLの維持・向上を目指し、ホリスティックな視点からケアを再考する契機となれば幸いである。

（6/19 公開講義受講者対面1名・オンライン3名・学部生14名

6/26 公開講義受講者対面2名・オンライン1名・学部生14名）

- ③ 「看護倫理」CARE for CAREGIVER
（2025/08/15：15名）

田村祐樹講師より、「CARE for CAREGIVER ～その人らしく、あなたらしく～」をテーマに講義していただいた。

「治癒とは？」という問いかけからはじまり、参加者同士の交流を図りながら講義がすすめられた。終末期患者のこころの状態、心地よい時間、ストレスがある状態では持ち味を発揮することが難しく、こころが満たされた状態では持ち味を発揮することが自然にできるなど、対応事例を含め説明していただいた。また、感情のメカニズムやワークをとおして参加者自身の癖について知り、ストレスがある中でも自分らしくいるための方略について考える機会となった。

（公開講義受講者10名：修士課程履修生4名：博士課程履修生1名）

4. 次年度にむけて

研修部門の企画および運営を振り返った。1)の講演部門においては、講師として歌手を招聘するというこれまでにはなかった企画であったが、看護に関心に向けながら参加者全員が楽しい時間を過ごすことができ、多くの看護職と地域住民の方が本学へ足を運んでくださって本学部をよりよく知ってもらえる機会となった。2)の専門講座は、学内教員の協力を得ながら興味深い内容の講座を開催することができた。3)公開講座については、例年と同様、卒後教育の一環として位置づけて参加者を募り、多くの方に学生とともに学んでいただくことができた。受講者なしの講義もあり、学外者への周知が課題である。

今年度も様々な活動を行い、参加者間、参加者と学内教員の親交を深める貴重な機会にもなった。次年度以降も、引き続き皆様からの要望を踏まえて、県内の看護職者のさらなる質の向上のために講演や各種講座を展開していくとともに、これまでにはなかった新たな試みなども柔軟に検討し、地域に開かれた学部として発展していくように努めていきたい。

C. 情報部門

1. 委員：本田可奈子教授

2. 活動の概要

1. 講演会・専門講座・共同研究募集の周知活動

本年度は、講演会、専門講座、共同研究募集についての周知を例年どおり以下の方法で実施した。

- ・チラシ・ポスターを紙媒体で発送し、関係機関への周知を行った。
- ・地域交流看護実践研究センターのホームページ上に、共同研究募集や講演会に関する記事を掲載し、地域の看護職者への情報提供を行った。

2. 活動報告書の作成

昨年度に引き続き、ホームページに掲載する活動報告書を作成した。これにより、センターの活動実績を閲覧できるよう整備した。

3. リーフレットの改訂

令和8年度版のリーフレットを作成した。掲載写真を更新し、令和7年度の活動の様子をよりイメージしやすい内容に改訂した。なお、令和7年度の卒業式において卒業生に配布を予定している。

3. 次年度にむけて

情報部門においては、これまでの紙媒体およびホームページを活用した周知活動を基盤としつつ、次年度も引き続きDXの進展を踏まえた情報基盤の整備をすすめる。特に、オンデマンド配信など、地域の看護職者が時間や場所に制約されず学び続けられる環境を整備する必要がある。さらに、大学・医療機関・地域住民をつなぐ情報プラットフォームとしての機能を強化することで、看護人材の育成と循環を支えるエコシステムの形成に寄与していく。

Ⅲ. 看護キャリア形成支援室の活動報告

1. 活動の概要と活動実績

看護キャリア形成支援室は、令和6年から開始された滋賀県看護地域枠制度における看護キャリア形成支援事業を地域交流看護実践研究センター事業の一環として行っている。

看護地域枠制度は、地域医療のリーダーとなるべき資質の高い看護職の養成を行うとともに、滋賀県内で養成した優秀な人材の県内定着を促進するとされていることから、本学の看護キャリア形成支援室の事業の目的は、滋賀県立大学人間看護学部看護地域枠の学生および地域医療に興味のある学生およびその卒業生が、将来的に滋賀県の地域医療に貢献するキャリアを明確に描けるような支援を実施することとし、下記のような様々なプログラムを提供してきた。

●看護キャリア形成支援事業内容と2025年度活動実績

看護キャリア形成支援事業項目と2025年度の内容	活動日と参加人数
<p>1. 看護キャリア形成推奨科目の支援</p> <p>①看護英語実践：看護キャリア形成推奨科目（看護英語実践）の支援として、看護英語実践科目体験者との交流会を開催しタイ国ナレースワン大学研修で体験した異文化コミュニケーションについて学ぶ。</p> <p>②看護キャリアデザイン論：科目履修者である3・4回生に対して看護キャリア形成支援事業を紹介し、滋賀県の地域医療に貢献できるキャリアの礎となる事業参加の情報を提供する。</p> <p>③ボランティア実践演習：4回生での選択科目であるので、看護地域枠学生に対しては、看護ボランティア活動の評価方法を学ぶ科目であることの情報提供を行う。</p>	<p>8月5日（火）16:30～17:30 演習室8 学生10名（看護地域枠学生1名）</p> <p>5月29日（木）4時限 科目履修生28名</p> <p>2025年度は履修登録者なし</p>
<p>2. 看護ボランティアの参加</p> <p>①看護未来塾の活動への参加 ・ちびっこ広場 ・ビバシティ彦根での健康イベント「応援！いきいき健康生活」</p> <p>②地域病院での災害・防災訓練（傷病者役ボランティア）等に参加</p> <p>③滋賀県のイベントに対する医療ボランティア（びわこマラソン等）</p>	<p>4月29日（火） 看護地域枠学生11名</p> <p>10月4日（土） 看護地域枠学生11名</p> <p>3月8日（日） 学生30名（看護地域枠4名）</p>

<p>3. 滋賀県内の医療職との交流事業への参加</p> <p>①湖東圏域看護職の事業に看護地域卒学生の参加を促し、地域連携の中で活動する看護職への理解と交流</p> <p>滋賀県立大学開学30周年のホームカミングデイにて卒業生や湖畔の会の看護職との交流会および彦根市立病院勤務の卒業生との交流会を開催した。</p> <p>②多職種との交流も行われている全世代型地域包括ケアフォーラムへの参加。</p> <p>保健師、訪問看護師、病棟看護師等に看護体験の交流会「ナラティブ研修」に参加する。</p>	<p>6月7日(土)</p> <p>交流会1: 食堂ナシェリア 看護地域卒学生19名</p> <p>交流会2: E5-102 看護地域卒学生17名</p> <p>2月14日(土)</p> <p>彦根市立病院 看護地域卒学生1名</p>
<p>4. 滋賀医療人育成協力機構の医療学生等の支援事業への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏研修: 米原、彦根地域での1泊2日研修 ・春研修: 甲賀地域での日帰り研修 	<p>8月25日26日</p> <p>学生6名(看護地域卒学生4名)</p> <p>学生4名(看護地域卒学生2名)</p>
<p>5. 専任職員によるキャリア形成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護キャリア形成支援事業のオリエンテーション <p>1回生: 滋賀県健康福祉部のZoom説明を含めた事業紹介</p> <p>2回生: 2025年度の事業説明と各事業の連絡担当者の決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各看護職種の地域医療に対する役割の紹介 <p>1回生の人間探求学「地域に貢献する看護者の役割と備える力」にて滋賀県で活動する各看護職をZoomで紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任職員による個別面談と相談活動 <p>学年別に年1~2回の個別面談を定期開催</p> <p>定期面談以外の連絡相談を随時開催</p>	<p>4月10日(木) 10:00~</p> <p>4月10日(木) 4時限</p> <p>6月16日(月) 2時限</p> <p>1回生70名</p> <p>1回生: 9月末~10月</p> <p>2回生: 6月末~7月</p> <p>10月まではメール相談</p> <p>11月より週4日9:30~13:30 看護キャリア形成支援室で相談待機</p> <p>6月16日よりUSPO上に</p>

<ul style="list-style-type: none"> 看護地域枠学生限定のポータルサイト（マイステップ）を導入し活動記録を記載 	開設
<p>6. 就職支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生支援・就職課が実施する病院合同説明会への参加 インターシップ情報を随時、デジタル看板にて提供 第5地区の医療施設、実習施設および卒業生が就職している滋賀県内の医療施設のインターシップ情報の提供 	<p>6月11日（水） 6月13日（金）看護地域枠学生9名 7月より実施</p>
<p>●滋賀県看護地域枠制度における三大学共通事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 三大学が輪番制で年1回開催する2025年度の交流会は滋賀県立大学が担当した。地域交流看護実践研究センターの講演会に合わせて滋賀県立大学交流センター研修室で実施した。 	<p>10月18日（土）11：00～12：45 交流会：看護地域枠学生19名 講演会：看護地域枠学生7名</p>

2. 次年度に向けて

次年度も本年度と同様の看護キャリア形成支援事業を進めていくにあたって、年度初めに看護キャリア形成支援事業の日程を周知し、事業ごとに学生の連絡係を設け参加の主体性を養うことも目指していく。看護地域枠学生が3回生に進級していくことから、学生の個別ニーズに応じた就職活動が行えるよう支援体制を人間看護学部学生委員会と連携して強化していく。

また、看護地域枠制度の各大学の学生支援について、三大学で情報共有を行いながら看護地域枠制度の充実に向けた取り組みを行っていく。